

》環境目標と実績、環境負荷実績》SDGsの達成に貢献するビジネス》脱炭素社会の実現に向けて》循環型社会の実現に向けて》環境汚染物質の削減に向けて》自然共生社会の実現に向けて

## 環境マネジメント活動

# 環境目標と実績

DNPは、以下の項目を重点課題として目標を定め、活動を進めています。

評価基準 ◎：目標を大幅に上回る成果があった ○：目標を達成した、または順調に推移  
△：積極的に取り組んでいるが、目標達成に至らなかった ×：取り組みが不十分

テーマ	参照ページ	中長期目標 (GHG排出量削減は2030年および2050年まで、 それ以外は2025年までの目標)	2023年度実績		評価
GHG排出量削減	P 6-8, P 22	GHG排出量を2030年度までに2015年度比40%削減(SBT)	2015年度排出量 1,201千トン	2015年度比	◎
		2050年までにGHG排出量実質ゼロをめざす	2023年度排出量 745千トン <input checked="" type="checkbox"/>	38.0%減	
輸送環境負荷削減	P 23	輸送用燃料使用量売上高原単位を毎年1%削減し、2015年度比15%削減	2015年度原単位 1.42kℓ/億円	2015年度比	◎
			2023年度原単位 1.04kℓ/億円 <input checked="" type="checkbox"/>	26.9%減	
環境配慮製品・サービスの売上高拡大	P 20	スーパーエコプロダクツの総売上高比率を10%に拡大	2023年度総売上高比率 12.0% <input checked="" type="checkbox"/>		◎
資源循環率向上	P 25-26	資源循環率※を2015年度比5ポイント改善 ※100%リサイクルしている紙や梱包等を除外した不要物のうち、 マテリアルリサイクルまたはケミカルリサイクルされた割合	2015年度資源循環率 51.7%	2015年度比	◎
		2023年度資源循環率 62.4% <input checked="" type="checkbox"/>	10.7ポイント改善		
水使用量削減	P 27	水使用量売上高原単位を2015年度比35%削減	2015年度最終処分場利用率 0.06%	ゼロエミッションを維持	◎
			2023年度最終処分場利用率 0.04% <input checked="" type="checkbox"/>		
VOC排出量削減	P 29	すべての揮発性有機化合物(メタンを除く)の大気排出量を2015年度レベルに維持(国内)	2015年度排出量 4,581トン	2015年度比	◎
		VOC大気排出量削減に向けて、現地の法令遵守はもとより、技術導入等により可能な限りの削減を図る(海外)	2023年度排出量 4,056トン <input checked="" type="checkbox"/>	11.5%減	
印刷・加工用紙調達ガイドライン適合証明書取得率	P 21	適合証明書取得率100%を達成	2023年度取得率 98%		○
環境保全	P 14	大気排出規制項目の最大濃度を規制基準の70%以下に維持	2023年度目標(自主基準) 達成率 98%		○
		排水規制項目の最大濃度を規制基準の70%以下に維持	2023年度目標(自主基準) 達成率 99%		○
		敷地境界における最大臭気を規制基準の70%以下に維持	2023年度目標(自主基準) 達成率 100%		○
		敷地境界における最大騒音レベルを規制基準の70%以下に維持	2023年度目標(自主基準) 達成率 100%		○
		敷地境界における最大振動レベルを規制基準の70%以下に維持	2023年度目標(自主基準) 達成率 100%		○

### 温室効果ガス(GHG)排出量削減目標が「Science Based Targets (SBT) イニシアチブ」の認定を取得

DNPは2018年7月、国際的な環境団体「Science Based Targets (SBT) イニシアチブ」の認定を取得しました。2021年4月より厳しい目標に更新し、パリ協定が求めるWB2°C (well-below 2°C)水準と整合していることが認められました。今後もDNPは、省エネ活動や省エネ設備の導入など、GHG排出量の削減活動を一層強化します。またScope3に関しては、主要サプライヤーに対し、2025年までのSBT取得を促し、サプライチェーン全体でGHG排出量の削減を進めていきます。



» 環境目標と実績、環境負荷実態 » SDGsの達成に貢献するビジネス » 脱炭素社会の実現に向けて » 循環型社会の実現に向けて » 環境汚染物質の削減に向けて » 自然共生社会の実現に向けて

## 環境マネジメント活動

# 環境負荷実態

### 主要原材料投入量 (単位:千トン)

	2022	2023	
		☑	
紙	619.4	509.7	(17.7%減)
フィルム	163.8	147.8	(9.8%減)
樹脂	158.8	159.7	(0.6%増)
金属	57.0	57.2	(0.4%増)
インキ	54.3	58.6	(7.9%増)
その他	70.4	68.9	(2.1%減)

### 主要副資材投入量 (単位:千トン)★

	2022	2023	
		☑	
溶剤	24.7	25.1	(1.6%増)
酸・アルカリ	7.4	8.3	(12.2%増)

★ 対象は国内のみ

### ユーティリティ ※1

	2022	2023	
		☑	
電気(千MWh)	1,150	1,140	(0.9%減)
都市ガス(千Nm <sup>3</sup> )	56,170	54,210	(3.5%減)
LNG(千kg)	17,380	17,060	(1.8%減)
LPG(千kg)	5,270	4,350	(17.5%減)
重油(kℓ)	585	572	(2.2%減)
蒸気(TJ)	32	36	(12.5%増)
灯油(kℓ)	1,180	980	(16.9%減)
水(千m <sup>3</sup> )	7,260	7,300	(0.56%増)

※1 エネルギー総消費量 2023年度:13,540TJ

### 製品製造プロセス

#### スマートコミュニケーション部門

イメージング関連、ICカード、出版印刷、商業印刷など

#### ライフ＆ヘルスケア部門

包装材、建築材、モビリティ・産業用高機能材、医薬品、飲料など

#### エレクトロニクス部門

ディスプレイ製品、電子デバイスなど

#### その他部門

インキなど

### サイト内での再利用実態★

	2022	2023
溶剤回収利用量(千トン)	4.2	3.4
利用率 ※2	1.2	1.1
酸・アルカリ再生売却量(千トン)	9.3	8.9
水循環利用量(千m <sup>3</sup> )	219,210	268,290
利用率	32.7	39.6
廃熱利用による蒸気発生量(トン)	156,000	140,000

※2 利用率 [(投入量 + 再生または循環利用量) ÷ 投入量] で算出し、インキ中の溶剤分は含めていません。

★ 対象は国内のみ

2022年度のデータについて一部見直しを行いました。修正箇所は斜体で表記しています。

### 大気への排出量

	2022	2023	
		☑	
GHG ※3排出量(千トン-CO <sub>2</sub> )	763	745	(2.4%減)
NOx 排出量(トン)★	447	440	(1.6%減)
SOx 排出量(トン)★	4.7	5.5	(17%増)
VOC大気排出量(トン)	13,166	13,351	(1.4%増)

※3 GHG 温室効果ガス (Greenhouse Gas)。電気の使用にともなう排出量は、集計年度の前年度の係数等を用いて過去年度分を含め再計算しました。(詳細はP22に記載)

★ 対象は国内のみ

### 水域への排出量

	2022	2023	
		☑	
排水量(千m <sup>3</sup> )	5,690	5,550	(2.5%減)
COD 排出量(トン)★	17.8	19.3	(8.4%増)
窒素排出量(トン)★ ※4	4.7	4.8	(2.1%増)
磷排出量(トン)★	0.2	0.2	(-)

※4 対象は水質汚濁防止法の適用を受ける排水経路。

★ 対象は国内のみ

### 不要物の排出量 (単位:千トン)

	2022	2023	
		☑	
不要物総排出量	245	247	(0.8%増)
不要物総排出量(資源を除く量) ※5	67.7	60.9	(10.1%減)
廃棄物排出量	50.5	46.6	(7.7%減)
最終処分場利用量	4.9	4.9	(-)

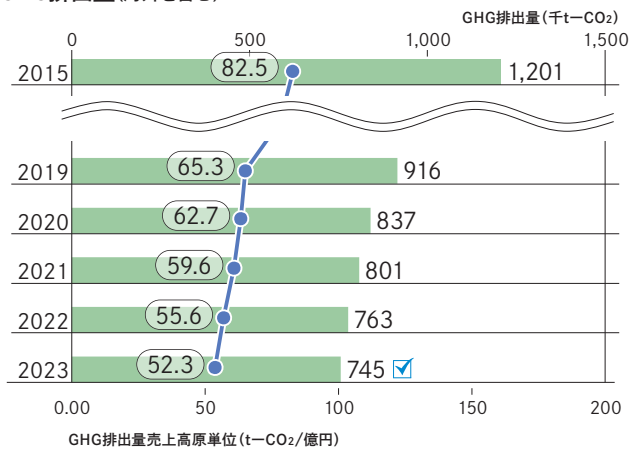
※5 紙くずを含め資源としてリサイクルされた量を除く不要物総排出量

» 環境目標と実績、環境負荷実態 » SDGsの達成に貢献するビジネス » 脱炭素社会の実現に向けて » 循環型社会の実現に向けて » 環境汚染物質の削減に向けて » 自然共生社会の実現に向けて

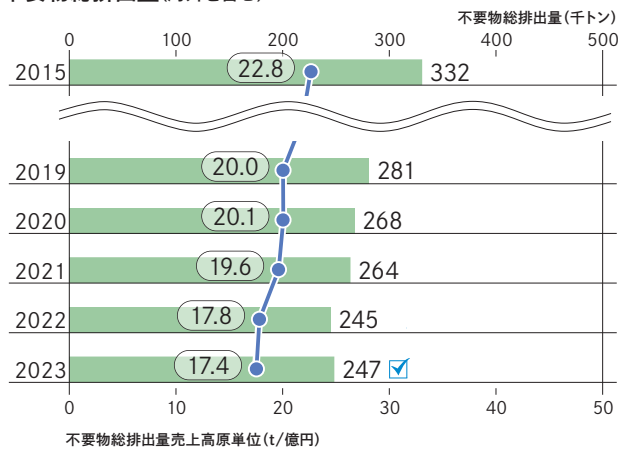
## 環境マネジメント活動

# 環境負荷の推移と環境効率

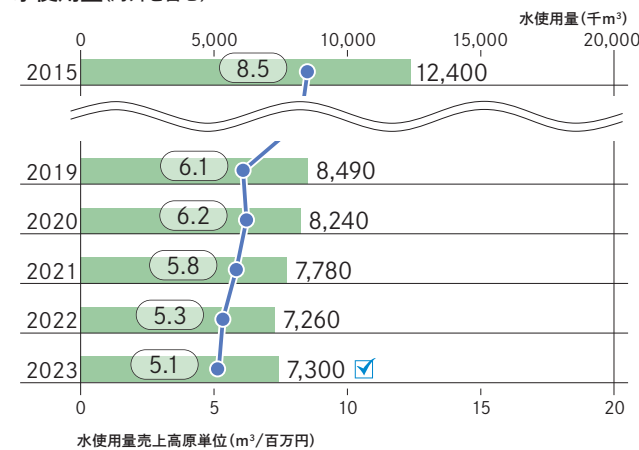
GHG排出量(海外を含む)



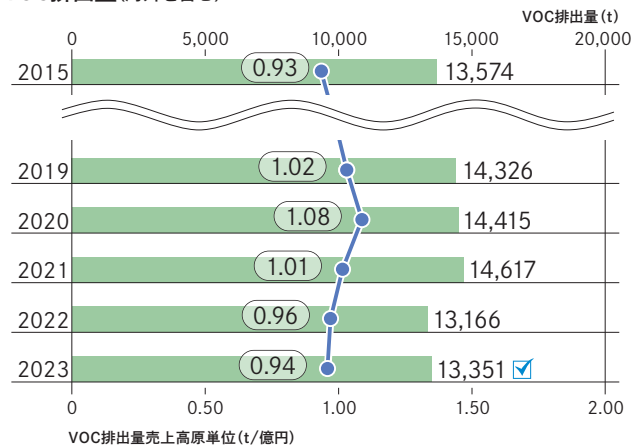
不要物総排出量(海外を含む)



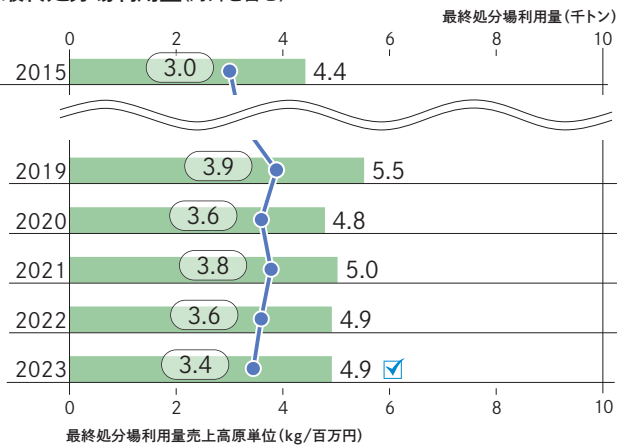
水使用量(海外を含む)



VOC排出量(海外を含む)



最終処分場利用量(海外を含む)



排水量(海外を含む)

